

協和中学校区の義務教育学校に関する住民説明会 要旨

1. 開催概要

(1) 日時

令和 7 年 6 月 29 日（日） 午後 2 時～午後 3 時 10 分

(2) 場所

協和コミュニティセンター 総合ホール

(3) 参加人数（人）

地 区	小栗地区	新治地区	古里地区	その他	計
人 数	11	6	4	0	21

2. 説明内容

(1) これまでの検討内容について

(2) 基本構想・基本計画（案）について

3. 質疑応答

参加者： 学校の統合が計画されている話は以前から聞いていたが、基本計画で令和 12 年開校を目指すという話は今回初めて聞いた。この学校の統廃合については、もっと地域に周知・説明していただきたい。今回もっと参加者がいるかと思ったが少なく感じた。

事務局： 今回説明した基本構想・基本計画（案）は、原案として 6 月に準備委員会でお示しさせていただいたもので、その協議を経て今回説明会で説明させていただくことになった。説明会としては、6/24, 25 に同じ内容で保護者向けの説明会も開催している。今後も準備委員会だよりの全戸配布や、市のホームページ等で検討・進捗状況の周知に努めていきたい。

参加者： 市内では先に明野五葉学園が開校している。その成果や他市町村の事例を踏まえて進めていただきたい。

事務局： 明野五葉学園の成果については、当然検証が必要であると考えている。それを協和地区の義務教育学校整備に生かしていきたい。

参加者： 小学校は地区の中心施設であり、学校がなくなるのは地域にとって大きなこと。通学する子供たちの声に地域も元気づけられてきた。子供たちの教育環境が一番だとは思いますが、学校跡地の利用についても検討をお願いしたい。

事務局： 学校跡地については、市の貴重な財産であるので、有効活用が図られるよう庁内で検討を進めていきたい。

参加者： 既に統合に向けて進むということだとは思いますが、個人的には小学生のうちはきめ細かい指導ができる少人数の方がいいのではないかという考えだった。

事務局： 昨年度行った「学校の在り方」協和地区協議会においても、少人数学校のメリット・デメリットについても検討し、その結果として小学校を統合し、施設一体型の義務教育学校の設置という方向性が決定された。

参加者： まず新治小学校に小学校を統合し、その後に義務教育学校にするという考えもあったのではと思う。どういった議論がされたのか、経緯について詳しく教えてもらいたい。

事務局： 昨年度、「学校の在り方」協和地区協議会を立ち上げ、小小統合や義務教育学校などの案について、それぞれのメリット・デメリットをお示しし、グループワークや意見交換などを実施して、子供たちの教育環境をどうするべきかを第一として協議していただいた。それにより、施設一体型の義務教育学校を整備する方向で検討するべきとの意見が多数となり、意見書を提出いただいたものである。

なお、協議会の委員は、自治会、保護者、地域の青少年関係団体の方で組織されているが、特に保護者委員は全員が施設一体型の義務教育学校を選択している。

参加者： 保護者アンケート結果では、回答率が54.1%となっているが、回答しなかった保護者に後追いで意見をきくことはあったのか。

事務局： 回答しなかった保護者の意見は確認していない。

参加者： 施設一体型義務教育学校のメリット・デメリットについて、説明をお願いしたい。

事務局： 一般的には、Q&Aの2-⑦に記載したようなメリット・デメリットがある。デメリットについては、協議会の意見書でも心配する声があげられており、デメリットを出来るだけ少なくできるよう検討を進めていきたい。

参加者： 小学生はスクールバスになるのだろうが、中学生の通学方法に影響はあるのか。

事務局： Q&Aの5-①のとおり、スクールバスは、統合によって遠距離通学となる児童を対象とし、統合の影響がない中学生は従来通り自転車での通学を基本とする予定である。

参加者： 学校外からの防犯対策は当然考えられていると思うが、最近、教職員の盗撮のニュースもあり学校内の防犯も心配である。これについてはどのように考えているのか。

事務局： 教育委員会には、学校等を指導する指導課という課があり、学校訪問などを実施し、各学校に教育長はじめ指導課職員等が授業内容や方針の確認、指導を行っている。また、校長会、教頭会、教務主任会などを通じて、情報共有や状況確認、指導を行っている。

その他、教職員に対して、情報セキュリティ研修やコンプライアンス研修を実施し、資質の向上に努めている。

参加者： 自分の子供は、開校時には中学校を卒業している。現在小学生だが、既にクラス替えができない人数であり、初動が遅かったのではと思う。児童生徒数の今後の推計も考えて検討しているのか。

事務局： 初動が遅いというご意見については、ご指摘のとおりで申し訳ない。市としては平成 27 年度に基本方針を定め、取り組んできたが、財源等の問題もあり、一度に複数の学校整備を行うことは難しく、まずはモデル校として明野地区の整備を進めることとなった。また、学校の適正配置を進めるにあたっては、保護者や地域の皆さんと話し合いを行い、方向性を決めていくことが必要であり、段階を踏んで進めているところである。

将来の児童生徒数の推計については、本基本計画にもおいてもそれを考慮した施設配置とすることとしている。今後の設計段階においても十分検討していきたい。

参加者： 自分の子供は、小学校の途中から義務教育学校に変わる学年である。途中で環境が変わる子供たちに対してのケアなどは考えているのか。

事務局： 明野五葉学園の際にも同様の懸念があり、100%ではないが、統合前の小学校に勤務していた教諭を統合後の学校にも配属してもらうなど対策を行った。環境が変わる児童へのケアについては最大限配慮していきたい。